

2 薬物治療：第一選択薬（アドレナリン）

- アナフィラキシーと診断した場合または強く疑われる場合は、大腿部中央の前外側に0.1% アドレナリン (1:1,000 ; 1 mg/mL) 0.01 mg/kg を直ちに筋肉注射する。
- アドレナリンの最大投与量は、成人0.5 mg、小児0.3 mgであり、表14に示すように簡素化してもよい。
- 経静脈投与は心停止もしくは心停止に近い状態では必要であるが、それ以外では不整脈、高血圧などの有害作用を起こす可能性があるため、推奨されない。
- アドレナリン血中濃度は筋注後10分程度で最高になり、40分程度で半減する。
Simons FE et al. J Allergy Clin Immunol. 1998;101:33-7
- アドレナリンの効果は短時間で消失するため、症状が治療抵抗性を示す場合は、5～15分毎に繰り返し投与する。
- 妊娠中のアナフィラキシー患者に対しても、母体の循環動態を守ることが胎児を守ることにつながるので、アドレナリン筋注の適応となる。
Carra S et al. J Allergy Clin Immunol Pract. 2021;9:4270-8